

# FUNERAL INFORMATION®

1885年創業の信頼と実績

善光寺の鐘が聴こえる

日野岩葬送会館

## 想樹の杜

そうじゆのもり

～葬儀・法事の御相談・御依頼は～

026-232-0012

長野市箱清水2-26-14



葬儀情報紙

2020  
December

# 12

Ceremony Support

“いざ”という時の安心のために～はと倶楽部 会員募集中!!

この情報紙に記載されている内容に関しましては、地域の習慣・風習などにより異なる場合があります



## 声に出して楽しみましょう

古典文学と聞いて、「難しい」と考える方は多いでしょう。でも、決してそんなことはありません。声に出して読んでみると、古典の楽しさは、より分かってもらえるはずです。例えば、こんな一首はいかがでしょう？

河の辺のつらつら椿つらつらに  
見れども飽かず巨勢の春野は

これは、春日蔵首老が詠んだ歌で、万葉集の巻一に収められています。「巨勢の春のつらつら椿は、いつ見ても飽きない」という、巨勢（現在の奈良県御所市古瀬）の初春に咲くツバキの美しさを詠んでいます。

「つらつら椿」は「列々椿（列々椿）」。ツバキが連なって咲く様子を描いています。それを、つらつらと＝じっくり眺めていると見入ってしまうという素朴な歌ですが、声に出して読むと、リズムカルな歌の面白さが伝わってきます。

## よき人のよしとよく見てよしと言ひし 吉野よく見よよき人よく見つ

こちら巻一に収められた、天武天皇の歌です。まるで早口言葉のような一首ですが、壬申の乱（672年）で奈良・吉野から挙兵した天武天皇が、後に吉野へ行幸した際に6人の皇子を集めて詠んだ歌だといわれています。

古代日本最大の内乱とされる壬申の乱では、大海人皇子（後の天武天皇）が兄の友皇子と戦い、勝利を収めました。このような兄弟での皇位継承争いを起こさぬよう、天皇が息子たちにこの歌を詠んだという歴史学者もいます。

その真偽は定かではありませんが、この歌の面白さは、声に出して読むことでわかります。万葉集に収められた約4,500首を、ぜひ口にしてみてください。

## 6人の皇子のために？

本文中にある天武天皇の歌の原文では、「よき」「よし」「よく」には、「淑き」「良し」「吉（よく）」「好し」「芳野（吉野）」「四来三（よく見つ）」という漢字が当てられています。漢字は6つ、皇子は6人。この歌を文字として記録した人にも、遊び心があったのかもしれない。

